



紅花摘んで、郷土愛を育む 町内の小学校、高校、専修学校で紅花摘み体験

町内では、7月上旬に紅花が開花しはじめるとともに、夏の風物詩となる「紅花摘み」がはじまります。7月7日から12日にかけて、町内の各小学校と荒砥高校、白鷹専修学校では、紅花について理解と関心を深め、郷土愛を育むことを目的とした紅花摘み体験を行いました。

各小学校の児童は、紅花に触れるのがはじめてという子がほとんど。紅花畑に入るや否や、「痛い！！」と叫ぶ声が飛び交いました。それでも、痛みをこらえて花びらを上手に摘むことができたときには思わずニコリ。悪戦苦闘しながらも、約1時間の摘み取り作業で袋いっぱい溜まった黄金色に輝く花びらを見て「きれい…」と言葉をこぼす児童もいました。

荒砥高校と白鷹専修学校では、1年生から3年生までの全学年の生徒が参加。昨年、花摘みを経験している2、3年生の中には、分厚く頑丈な手袋を持参し「痛み対策バッチリ！」と意気込む生徒も見られ、慣れた手つきで次々と摘んでいきました。

今回、児童生徒が摘んだ花は生産者の手によって紅餅に加工され、口紅や着物等の染料として活用されます。毎年、この時期は“猫の手”も借りたくなるほど忙しくなります。今年も町内の若い力に支えられ、素晴らしい紅餅ができることでしょう。



町産木材をふんだんに活用した新特養施設 白光園で上棟式と施設見学会を開催

7月26日、旧白鷹西中学校跡地に建設中の新特養施設で上棟式と施設内見学会が開催されました。

新特養施設は、自宅に近い環境が特徴で入居者の個性や生活リズムに応じてサポートする「ユニットケア」を採用したユニット型特養となっており、地域交流スペースも設けられ、より多くの町民の方が来館できるような設計になっています。また、建設木材の約9割が町産木材を使用しており、町に慣れ親しんだ木材がふんだんに活用されているのが特徴です。見学に訪れた参加者の皆さんは、興味深い様子で施設内を見学しながら完成を待ち望んでいました。



担当者の説明を聞きながら施設内を見学しました

犯罪のない明るい社会を築こう 「第69回社会を明るくする運動」を開催

7月1日、「第69回社会を明るくする運動」住民集会在健康福祉センターで開かれました。

この運動はすべての国民が犯罪や非行を防止し、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪のない明るい社会を築くことを目的としたものです。この日は佐藤誠七町長と今野正明議長に内閣総理大臣メッセージが伝達され、その後、保護司会と更生保護女性会が街頭啓発キャラバンとして町内の学校や金融機関などを巡回訪問しました。集会では、山形保護観察所の佐々木保護観察官による記念講演が行われ、参加者一同は更生保護や立ち直りを支える仕組みについてより一層見識を深めました。



安全安心な地域社会を一緒に築きましょう

東北・全国大会での活躍を誓う 県中学校体育大会の結果報告会

7月29日、白鷹中学校サッカー部と陸上部の紺野稜真くんが県大会優勝報告のため来庁しました。

サッカー部は昨年に続き、見事2連覇を達成。選手たちは「東北大会でも勝ち進み、全国大会への切符を勝ち取ります。」と決意を述べました。陸上部の紺野稜真くんは四種競技で大会新記録を樹立。また、県大会の1ヶ月前に行われた通信陸上競技県大会においても110㍍ハードルと四種競技で第一位に輝き、全国大会出場を決めました。紺野くんは「応援して下さった皆さんに恩返しができるように今後の大会でも頑張ります。」と決意を述べました。
(7頁に詳細結果記載)



今後の大会での活躍を誓い合いました

みんなで作る日本の紅（あか） 白鷹中学校で紅花の花摘みと紅餅作り

7月17日、白鷹中学校の1年生が紅花の収穫作業と紅餅作りを行いました。

5月の種まきからはじまり、順調に成長した紅花は綺麗に花を咲かせ、生徒たちは自分たちで育てた紅花を約1時間かけて収穫し、学校戻った後は紅餅作りも体験。生産者の方が事前に準備して下さった紅餅の原料を見て、「収穫の時に見た黄色い花がこんなにも赤くなるのか！」と驚いた表情を浮かべる生徒たち。原料を手にし、丁寧に押し固めて紅餅を仕上げました。今回も「紅の花を咲かせる会」の皆さんにサポートしていただき、紅花に対する理解と関心を深めることができました。



丁寧に押し固めて紅餅を作る生徒たち